

## 腰痛

今回の病院の実力は、腰痛をテーマとした。

「椎間板ヘルニア」は、腰の骨と骨の間でクッション役として働いている椎間板が飛び出し、神経を圧迫して腰が痛む病気だ。「脊柱管狭窄

# 内視鏡手術HPに認定医

症」は、加齢によって椎骨をつなぐ靭帯が厚くなったり、椎骨がずれたりして、神経が通る脊柱管が狭くなって起こる。

一覧表には、これらの代表的な腰の病気について、2016年に手術を受けた患者数を載せた。

また、手術のうち、体の負担が少ない「低侵襲手術」を受けた患者数も明示した。低侵襲手術は、内視鏡や顕微鏡を使うことで、皮膚を切り開

く傷口が通常よりも小さい2〜3センチで済む手術だ。術後の痛みが軽かったり、術後の回復が早いことで入院期間が短くなったりするなどの長所がある。

ただ低侵襲手術は、手術の難易度は高くなる。日本整形外科学会は、内視鏡を使った脊椎手術については技術認定医を公表しており、ホームページで確認できる。

腰痛治療で注意したいのは、必ずしも手術が最良の

腰痛の多くはレントゲンや磁気共鳴画像装置(MRI)

## 薬や運動7割症状改善

平和病院・横浜脊椎脊髄病センター長



田村陸弘さん

治療とは限らない点だ。椎間板ヘルニアは、手術をし

なくても1年後には9割以上が回復するとの研究報告もある。また、脊柱管狭窄症の手術では、痛みは改善しても、しびれが残る場合もある。手術が必要かどうかは医師によく相談する必要がある。

の血流をよくする薬、脳で痛みを感じるのを抑える薬など、様々な薬があり、手術に至る前の保存治療の選択肢が増えてきている。手術は、少なくとも3か月から半年ほど、こうした保存治療を行った上で検討することになる。

手術については、通常の除圧術のほか、当院では内視鏡、顕微鏡、拡大鏡(ルーペ眼鏡)による低侵襲手術も行っている。「すべり症」といって骨がずれて神経を圧迫したり、椎間板がつぶれたりしていることもある。その場合は、椎間板を取り除き骨移植をおこなう脊椎固定術の対象になるが、この固定術についても脇腹や背中から低侵襲でインプラント(金属)を挿入する方法を採用している。

神奈川県は開業医の質が高く、保存治療は地元で十分行える。開業医と専門病院との連携もスムーズなので、手術を受けるかどうか悩んだら専門医に相談して、手術は必要なのか、どのような方法か、どのぐらい改善するかなどの説明を受けるとよいと思う。

症状やライフスタイルは一人ひとり違うので、開業医や専門医とよく相談することが大切だ。

## 病院の実力「腰痛」

医療機関別2016年治療実績

(読売新聞調べ)

医療機関名	①腰部脊柱管狭窄症の手術(人)	①のうち低侵襲手術(人)	②腰椎椎間板ヘルニアの手術(人)	②のうち低侵襲手術(人)
平和横浜脊髄病センター	385	43	212	67
新横浜スパインク	353	0	7	0
日本鋼管	225	69	189	189
湘南藤沢徳洲会	217	11	16	16
昭和大横浜市北部	189	112	16	14
横浜労災	172	0	33	27
東海大	156	17	36	36
横浜市立みなと赤十字	152	152	30	30
伊勢原協同	150	0	35	3
横浜市大病院	121	10	18	18
川崎幸	118	61	17	14
厚木市立	108	0	14	0
総合新川橋	105	105	3	2
北里大	94	0	21	0
市立川崎	91	0	31	7
済生会横浜市南部	90	90	15	15
済生会横浜市東部	84	0	11	11
平塚共済	72	0	9	1
横浜市大市民総合医療セ	71	4	3	3
藤沢市民	60	0	6	0
内田毅ク	51	51	11	11
聖マリアンナ医大	48	0	27	6
湘南鎌倉総合	31	31	34	34
横須賀市立うわまち	20	0	5	5
海老名総合	16	0	7	7
横浜総合	14	0	15	0
桜ヶ丘中央	2	-	6	-

※整形外科のみの実績

「セ」はセンター、「ク」はクリニック。

「-」は無回答または不明。

全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は7月2日「婦人科がん」の予定です。